

自分の人権感覚を見直してみよう

小学校高学年～中学校

ねらい 日常会話の中に、差別につながる偏見が潜んでいないか考える。
話し合いや活動をとおして自分の人権感覚を磨く。

気づく

普段なにげなく使っている言葉・会話について振り返ろう

学校や家庭、地域など自分の身近なところで、人を不快にさせる言葉や会話がなかったか話し合う。

留意点

- ・教師からも気になる言葉を提示する。

遊びや日常生活の中で何げなく使っているが、言われたらいやな言葉、傷つく言葉、腹が立つ言葉などを出し合う。
例:「お兄ちゃんだから...」「女の子らしく...」

広げる・深める

っていうのはいつも だ!

思い込みや偏見について考える。
グループで意見を出し合い、考えを深める。

留意点

- ・生活の中で、根拠のない思い込みや相手の気持ちを考えない発言などはないか、広い視点で考えさせる。
- ・思い込みや偏見が差別につながることに気づかせる。

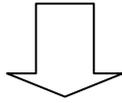
「こころのいずみへ」(滋賀県)
「劇的ピフォーアフター」(滋賀県人権センター)
教師による啓発劇
(【参考】血液型についての朗読劇)

【参考】血液型についての朗読劇

ナレーション:

私たちの中に「思い込み」ってありますよね。
よく話題になる血液型について、こんなことはありませんでしたか。
次の朗読劇を聞いて、考えてみてください。

- :「ねえねえ ちゃん、血液型、何型？」
- :「何型に見える？」
- :「うーん、几帳面だからA型かな？」
- :「当たり前！ ちゃんは何型？」
- :「同じA型。だから私たちって気が合うのよ。」
- :「そうよね。他の血液型の人ってやっぱり話が合わないよね。」



実践する

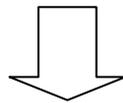
グループでまとめ、発表しよう

まとめ方を工夫して、効果的に発表する。
感じたことや学んだことを交流する。

留意点

- ・「何がおかしいのか」「なぜ気になるのか」など、質問が出たら説明できるようにさせる。
- ・グループや学級にいろいろな立場の人がいることに配慮する。

模造紙や画用紙にまとめて発表したり、シナリオをつくって劇にしたりするなど工夫する。



振り返る

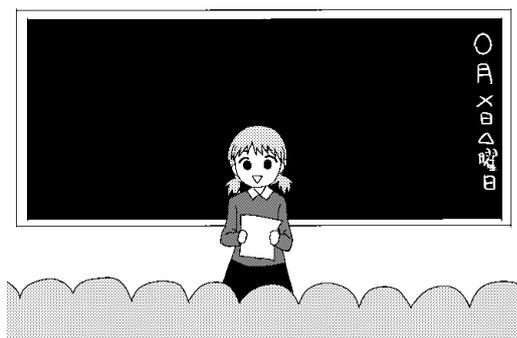
日常生活を見直そう

活動を通して感じたことや学んだことを感想にまとめる。

留意点

- ・自分の内面やクラスの雰囲気、差別を容認するような部分がなかったか振り返らせる。

家庭での会話につなげることも考えられる。



【学習を進めるにあたって】

- ・「人権教育の指導方法の在り方について [第三次とりまとめ]」にもあるように、人権感覚をとぎすませていくことが、相手を思いやる気持ちや、偏見や差別を見きわめる技能につながることを確認したい。
- ・人権感覚を磨くことで、身のまわりにあるさまざまな偏見に気づかせ、差別をなくす行動につなげたい。